

# 浄青神奈川

大本山光明寺御法王戸松啓真台下御染筆

神奈川浄青機関紙

No.27

発行責任者 宮林雄彦  
発行 神奈川浄青  
発行日 H.12.6.1



## かいこうそうじん 邂逅創心

— であいが明日を創る —

第13代会長 宮林雄彦

若き念仏の声と共に伝統を継ぎ  
今を活かし 夢を描こう

21世紀を目の前に向かえ、私たちはこの新しい時代に大きな期待をかけております。自分たちの手で社会を、個人を今までの概念にとらわれることなく創ろうとしています。今こそ私たち浄土宗の青年僧侶として、およそ八百年を経た「南無阿彌陀仏」の念仏の響きを社会に活かそうではありませんか。戦後50年を過ぎ、人々の倫理観 宗教観は大きく変わったと思います。生きるために、働いて、働いてお金を貯めてきました。あの程度衣食住が足りますと、今度は人よりいい生活をしたい、贅沢したいと思うようになりました。そのような結果、お金が一番、お金さえあればという拝金主義が蔓延したように思えてなりません。

また社会の歪みから、子供たちが過激な犯罪に走る現象もみられます。こうした状況の中、私たちに出来る事はないでしょうか。何もせず傍観者で良いのでしょうか。元祖法然上人は現在と同じような混沌とした社会の中で、お念仏によつて多くの衆生を救うために、43歳で浄土宗をお開きになりました。私たちも同じ青年僧として、その志をしっかり受け継ぎ、教えを弘め、社会浄化を行おうではありませんか。第13期は、脈々と流れてきた神浄青の「自行・化他・和合」の精神に則り、様々な事業を展開していきたいと思えます。

**自行** 私たちの本分は僧侶としてまず自ら実践することであり、当然自坊でも実践していると思えますが、青年会という組織の中で行うことによつて、より一層

効果的にできるのではないかと  
思います。会員同士が切磋琢磨し、輝しい頼もしい念仏の声を響かせましょう。また私たちは大本山光明寺を仰ぎ、歴史ある十夜法要引声念仏に触れる機会があります。これは他の教区には体験できない事です。ぜひ青年会としてこの伝統的な念仏に思いを馳せ、研鑽を深めたいと思えます。そして前期に鎌倉組と三浦組主催のもと大成功を修めた、開教区における引声念仏法要を神浄青として行い、継承者としての自覚を持つて弘めていきたいと思えます。

**化他** 青年の特権は時代の流れに敏感な事だと思えます。社会が、人々が何を望み、また私たちがどのような事ができるかを考えていきたいと思えます。具体的には、私たちと同じ世代の青年に、仏教或いはお念仏に親しんでもらえるような式を開催したいと思えます。

また子供を持つ親の世代である私たちが、次代を担う子供たちに「感謝の心」を持てるようなプログラムを開催したいと思えます。ご承知のように神奈川教区には「夏期僧堂」があります。感受性の強い子供がお寺で生活を送ることは、長く健全な心に宿っていくものと思えます。積極的にかかわり、念仏弘通の精

神を実践しましょう。また少しの浄財で生きていく糧を得ることが出来る子供たちが世界中に大勢います。小さな灯でも数が集まれば眩いばかりの光になります。ぜひそんな子供たちにも手を差し延べる事ができればと思います。

**和合** 私たちの神浄青は、組単位の浄青がしっかりと機能しています。そしていつも私たちの組織は、様々な事業を通じて親睦を深めています。そのようなお互いが刺激をしいながら明日の浄土宗を語りあい、僧侶以外の方々ともネットワークを結んでいけたらと思えます。楽しみながらこれからの夢を語りましょう。

**終りに** 私たちは仏さまとであい、お念仏とであい、そして同行の仲間とであい、自らの魂を燃やしてきました。もしそのであいがなければ私たちは路頭に迷っていたことでしょう。私たちは信仰を持ち、青年として熱く燃えたる情熱を有して多少荒削りでも議論し行動できると確信しております。様々な多くのであいが、私たちの心を育てています。**邂逅創心** 皆さんと真剣に語り運動を展開していきたいと思えます。皆さんの絶大なるご支援をよろしくお願ひします。

## 会長就任に寄せて



大本山光明寺法主

戸松啓真 台上下

この度、神奈川教区浄土宗青年会第十三代会長に宮林雄彦上人が就任せられ、諸役員も新たにその役に任ぜられた由、真に喜ばしくお祝い申し上げると共に伝統ある神浄青の為に益々の精進を願うものであります。

記念すべき二十一世紀を迎えんとするにも拘らず、これまででは教育の頹廢、家庭崩壊による凶悪犯罪、特に青少年の犯罪等、目をおおいたくなるような事件が続発している現状を目のあたりにする今日、我々教化にあたるものにとって、特にこの時代を双肩に擔わんとする諸君の活躍を期待するものであります。かつて「少年老い易く、学成り難たし、一寸の光陰軽んずべからず、未だ覚めず池塘春草の夢、階前の梧葉己に秋声」と、かの朱子学の祖である朱熹の詩

## 第13代宮林会長就任に寄せて



神奈川教区教区長

清水 嚴矩

の一節として有名なこの言葉は、少年時代を楽しんでいるうち、はや老境が迫ってくる。一刻一刻を大事に、充実した日々を送らなければならぬと訓されたものであります。この先哲の詞を体し、われわれ宗教界にあるものは、荒んだ現代をいかに

に教化善導して行くべきか考えようではありませんか。社会の変革で今日自分があることの父母や先祖への感謝、社会との共生等を考慮し、その上で自分は如何に生くべきかを考える若人を育てたいものであります。

まず足もとの寺庭から反省と合掌感謝の生活に入り、その中から檀信徒の教化に当たり、仏教の本意である「歡喜奉行（歡んで働き奉仕する精神）」のものと一刻一刻を大事に、充実した日々を送りたいものであります。神浄青諸君の活躍を期待致します。

いつ、どこでお会いしても元気で大声、にこにこ闊達な宮林師、神浄青会長の就任で神奈川はますます勢いづくものと喜んでいきます。

日頃は、教区の行事、本山の法要・各寺の催しなどに浄青の諸師が積極的に携わってください。皆さん大助かりで感謝しています。邂逅創心「であいが心を創る」と活動指針が掲げられました。集まって研修し、信仰心を高め、念仏弘通に励むと解すのでしよう。

私など長くお寺の生活をして来ますと、坊さんで良かったな」と思うことがあります。その土地に根付いた信用、檀信徒をはじめ、周りの人たちが一目置いてくれる、経済基盤が確立している、など零から出発したら長い時間が掛かるのに、既に土台が固まっています。そこに育った浄青の皆さんは会員相互の交流により見聞をひ

ろめ、自坊に立ち返ったの生活に反映させる。その背後には先輩の苦勞と檀信徒の好意とが満ちみちています。

一般社会に活躍する同世代の若者に会うと羨ましくもありません。時代の変動に焦り、いらだつ気持ちも湧いてきます。その刺激に触発され、勉強し、行動することも大切です。ですが私は恩師から次のように教わりました。

「どうしようか」の前に「どうあるか」が先立つべきである。言い換えれば「どうしようか」ということに対する一番適切な最初の答えは、その当面のことながら「どうあるか」ということを、あらかじめ正確に周密に知ることであると思う、と。

浄土宗に属しお念仏を唱える私たちですが、各寺の条件は違います。己の立場を凝視し、であいの心を創り精進したく、思います。



# 体験と感動

(2年間の思い出)

第12代会長

一 真 光

平成十年四月二十日大本山光明寺食堂に於いて、平成十年度神奈川教区浄土宗青年会の定期総会が行われました。その席上にて浅学不徳の身でありながらも、当会第十二代会長に選出され早二年の歳月が経ち、ここに任期満了を迎えることとなりました。これも偏に神奈川教区内諸大徳並びに神浄青先輩諸師の浄青に対する多大なるご理解の中、ご教示ご指導を賜り、無事に責務を全うさせて頂きましたこと、心より厚くお礼申し上げます。

ここに二年間を振り返りますと、就任のあいさつで「原点に立ち戻り先祖のみ教えを深く信じ、お互いに思いやりの心を持ち一人ではなく『共に学び、共に歩む』」を第十二期の目標として掲げました。諸々の事業推進に当たっては執行部、役員並びに常任理事、理事各人の「知恵と和合」という大きな力をいただき会員各位の協力を得、共に一路邁進出来たものと思っております。

さて事業内容を垣間見るに、まず平成十年度に創立二十五周年を迎え神浄青歴代会長をはじめ教区内関係諸上人との絆をより一層探めることができました。特に特別事業にお

いては、高齢者問題を取り上げ、お年寄りの立場になって実践的な教化活動を見据え、会員各位による「高齢者疑似体験事業」を行いました。この高齢者問題に関しては、平成十一年度でも神浄青会員であります、藤沢法円寺(川瀬和一住職)の共生会老人ホームに出向き「高齢者介護体験事業」も実施し、私たち青年僧侶としての役割等を学ばさせて頂いていただきました。また、役員構成に関する会則の改正を行い事務局態勢の充実を図り、神奈川教区よりの助成金においては浄青活動の事業強化並びに会の活性化を図るべく助成金額の増額を依頼し、教区より快くご理解を頂戴いたしました。また、神奈川教区寺院婦人会との共催にて「教化短冊」を作成し教区内寺院に配布することもできました。この他の事業においても、常に多くの会員が参加をしていただき、この上ない喜びでありました。

人の力では何一つ解決できないのが現実です。そこで浄青(仲間)という組織を活用し、お互いに連携を保ちながら法然上人のみ教えの基、地域社会への貢献、檀信徒教化等微力ながらもいっしょに研鑽を重ね、実践していこうではありませんか。青年僧侶として刺激だけを求めるのではなく、多くの感動を共に得、それを多くの人々に伝えていくことが大切であると思います。今後も私自身、今までの体験を活かし、自行・化他・和合を点としてとらえるのではなく、線となる活動に結び付けていきたいと思えます。

平成十二年度を迎え第十三代宮林雄彦会長の下、会員一同一蓮托生となり、神浄青の伝統を継承し、更なる精進と活発な活動を祈念すると共に、神奈川教区浄土宗青年会とは誰のための組織であるかをもう一度考え、積極的に参加していただくことを念願しております。

最後に、二年もの長きにわたり優柔不断なこの私を支えてくださった執行部、役員、理事の皆様並びに会員各位のご厚情に感謝申し上げ、退任の挨拶とさせて頂きました。ありがとうございます。

合掌



2年間お疲れ様でした。

# 青 浄 神 紹 介



監事 杉浦定徳 三浦組 不断寺

小松崎会長の時に事務局補佐を勤めて以来、北邨会長時には関プロ実行委員会総務部長として、國松・塩澤両会長時には副会長として、いわば執行部の側で参加してきました。そして一会長の時には古巣に帰るが如く三浦浄青会長を勤めました。それぞれの代に様々な出会いや経験があり、それらが今心地よい思い出となっています。そして最後に監事。「好きだなー」と言われても今更否定致しません。事実そうなのですから。



副会長 渡部俊賢 鎌倉組 正業寺

外部から見れば、浄青というと、「気楽な稼業」と見られがちです。実際には青年僧として、理想と現実の中で矛盾を感じ、悩み、苦しみながらの日々を送っている人が多いことに出会いました。一人で悩み、苦しむのではなく、また、利己的になるのではなく、会員一同が青年僧として何をしなくてはならないのか模索したとき、浄青での出会いのすべてが素晴らしいものになると思います。



会計 井上俊道 港南組 願行寺

思い出せば 15年以上前の増上寺で、私の乗ったバスの前に横付けした、赤いカーテンから降りた大きな人、それが宮林会長との初めての出会いでした。そしてこの度、会長の下、会計を務めさせて頂くことになりました。



監事 野口浩晶 高座組 常光寺

前期、一會長に2年間会計の仕事をお願いされた時、単純に現金の出納の管理だけをと言う事で受けさせて頂きました。任期も終わりに近づいたある日、宮林会長より来期の監事を自分にやって欲しいと言われました。そのような大役をと思いつつ受けてしまった今、今期は宮林会長のもと、監事と言う立場からこの盛り沢山の事業を成功させるべく微力ではありますが精一杯頑張っていきたいと思ひます。2年間宜しくお願ひ致します。



書記 岩崎正伸 小田原組 光明寺

2時間の会議の一言ひとこと、どの意見も大事だが、これをまとめ一枚の紙に議事録として残さなくてはならない。議事録の字が小さい時ほど中身の濃い理事会が展開されたということになる。日本語は難しいと痛感した。



事務局員 森本有史 京浜組 良忠寺

良忠寺の森本有史と申します。事務局員として宮林会長をサポートさせて頂きます。この2年間に経験する全ての事、全ての出会いを有り難い仏縁と思い、これからの私の人生に役立てていきたいと思ひます。



編集委員長 三荒弘道 中郡組 宗源寺

第12期では事務局員として会員の皆様方には大変お世話になりました。第13期では宮林会長のもと、編集委員会委員長として再びお世話になります。広報を通じ「邂逅創心」(であい)を求めていきます！





第13期マスコットキャラクター  
おさちゃん



# 第 13 期 役 員



相談役 國松俊康 鎌倉組 常福寺

もう浄青は、すっかり引退したつもりでいたんですが、いつの間にかやら「相談役」なる良く解らんポストに祭り上げられてしまいました。でも、新会長をはじめ有能なスタッフが目白押しなので、相談事なんて何も無いと思うんですけど。若い方々頑張ってください。  
まあ、私にとっては浄青最後の2年間、何か熱くなるような「出会い」をしないなあ。  
(些か強引なこじつけながら、不謹慎なる意味合いは、一切含み申さず。念のため。)



副会長 夏見裕貴 港北組 宗忠寺

神浄青第13期宮林雄彦会長が、『であい』をキーワードに事業を展開されます。  
一人ではできないことも、多くの英知を集結することで、より深い会員相互のネットワークがつかわれていくと考えます。  
副会長という立場のもと、会長と会員とのパイプになり、スムーズに会が遂行していけるように心がけていく所存であります。  
皆様の暖かいご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。



相談役 塩澤智彦 港南組 大誓寺

“阿弥陀經”に「晝夜六時に曼荼羅華をふらす」と説かれた極楽浄土の様を儀式化した散華という作法があります。  
今期宮林会長の主事業である北米別院においての法要は、色とりどりの色衣と七条袈裟を付けて出勤する神浄青会員僧侶が散華することになっています。開教区のお念仏を信仰する人々と出会って、感動する一日、感激する一日となるよう微力ながらお手伝いさせていただきます。  
ここにあらためて、つつがなく円成するよう心がけております。



会計 樋口芳宏 京浜組 三宝寺

第13期神浄青におきまして会計を担当させていただくことになりました。多くの会員の皆様との活動を通じ、会はもとより自分自身の向上にも努めたいと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



事務局長 佐々木敬易 京浜組 専念寺

このたび第13期神浄青の事務局長を委嘱されました佐々木敬易でございます。今期宮林会長は邂逅劇心という活動指針を掲げ、一人でも多くの会員が何らかの活動に参加したくなるよう、であいの場として多彩な事業や委員会を設け、皆様の参加を呼びかけます。至らぬゆえ皆様には諸事ご迷惑をおかけいたしますが、事業の参加を通じ皆様の心に何かが生じればと存じ各事業の遂行に努めて参ります。よろしくお願ひいたします。



相談役 眞光 中郡組 易住寺  
微力ながら!!

新たに設置された相談役というポスト。さて、相談役とはどのようなことをすれば良いのか。迷惑を掛けるといけないので『広辞苑』で調べてみました。「①相談の相手になる人の会社などで運営上の諸問題について適当な助言や調停などできる訳がないが、微力ながら私のできる範囲で一所懸命協力いたします。



事務局員 加藤光成 京浜組 大徳寺

加藤光成です。この度、事務局員として宮林会長をサポートさせていただくことになりました。楽しく神浄青をしたいです。よろびくPs 風俗は、事務局長、キャワラは、私に話をしてくれば、情報あり。



平成12年度 4大イベント

イベント1

ロスに灯そう  
神奈川の伝統



北米開教区引声法要奉修事業  
実行委員会  
委員長 杉浦定徳

①実行委員長ということで、今年度会長から監事を受けさせて頂いた時、すでにこの話は出ておりました。

以前、三浦・鎌倉組がハワイで引声法要を開催しましたが、その経験を生かして神浄青全体で勤めたいと思います。私としてもそういう気運が高まって、一人でも多くの人がこの機会に引声法要を研修されることを大いに期待しております。

②基本は法要を勤めることなので、まずは習礼を主体とし、同

時に50年に及ぶ伝統ある法要というものを国内外に広く紹介出来るよう、展開していきたいと思えます。

③光明寺のお十夜では、ある程度決まった方々がお勤めされている傾向が否めないで、教区一丸となって支える意味で、同じ志を持つ人を一人でも多く募ることが出来ればと思います。



イベント2

アジアの子供たちへ



海外仏教国小学生  
支援事業実行委員会  
委員長 平元正法

①私にも今までにネパールで医療支援、フィリピンのセブ島で小学校にペンキを塗ったという大変有意義な経験がございます。

そこで、浄青の全メンバーの総力で浄財を集め、アジアの仏教国の地域の困っている方々に支援をしたいと思えます。

②まず正直、お金がかかります。100万円単位のお金がかかるということで、大変だと思うのですが、能家在家を問わず、お互い力を合わせて、街頭募金、バザーの開催、あるいはチャリティーコンサート開催等を通し、いろいろな広報活動を行い、幅広い浄財のご協力を得たいと思えます。

③お互い忙しい中ではありますが、時間を見つけ、それぞれ托鉢や、募金の活動を通して自己を高めて、協力をしていただきたい。ひいては、仏道の実践にもつながると考えています。

今年の各事業の実行委員長に次のような質問をしてみました。

- ①実行委員長に就任されての感想は？
- ②どのような事業展開をされるのでしょうか？
- ③メンバー、会員に言いたい事は？

# 会員一人ひとりが主役です。

## イベント3 明るく生きる

帰敬会企画実行委員会  
委員長  
齋藤匡念



①委員長の経験は初めてなので、責任重大と感しますが、皆様の協力を得て良いものが出て来れば、自信にもつながると思うので、頑張っていきたいと思っています。

②テーマ「邂逅創心」にのっとり、人との出会い、ひいては仏様との出会いも感じていただければと思います。

帰敬会と言うと、普通子供たち対象のものが多いのですが、今回は青年会同世代ぐらいの10代後半〜40代の男女を含めて、行いたいと思います。

③参加して下さった人たちに「若い坊さんはこういう部分も持っているんだな」とか「浄土宗の：暖かさってどうか」そういうものを感じていただきたいと思っています。そして、最後に「ありがとう」という声をかけていただけるといいな、帰敬会になれば最高だと思います。

問：あと、若い女性に対する教化って言うのはどのようにお考えですか？

答：やっぱりまごころですね！

## イベント4 より神浄青主体の 夏期僧堂へ

夏期僧堂企画実行委員会  
委員長  
大橋定敏



①夏期僧堂は神奈川教区の中で、伝統のある行事です。児童教化は非常に将来的に有望な事業なので、現在は寺院子弟だけではなく、一般子弟の方々も多く参加されております。少年問題などの教化をし、また寺院子弟は将来僧侶としてやっていく上で、その糧となるようなことを与えていきたいと思っています。

②伝統的な夏期僧堂のスケジュールに加え、新たにカレー作り、写仏等の事業を盛り込みます。

カレー作りでは、作る過程を子供たちに教えることによって、物の大切さ、食べられることのありがたさを解ってもらいたい。また写仏では、自分で仏様を描くことによって、仏教にいつそう親しみを持ってもらいたいと思います。

そういう思いで新たに2本の企画を加えました。

③委員会のメンバーは熟練指導員ばかりです。それに加え大学生や若手浄青会員の協力を頂き頑張っていきたいと思っています。

色々な意見がある中で、統一性をとることは難しいのですが、ひとつの事業を通して一致団結をし、実りのあるものにならなと思っています。それが、今後の浄青活動におけるひとつの導火線となっていけば、非常に幸いであります。



# 県内浄青8組紹介



## 京浜組

会長 陣川隆行

「念仏の教えが危ない」と、ある先輩がおっしゃいました。また、様々な所で同じような言葉が聞かれます。

僧侶の世界も世間と同じように、時代は流され大きなものを失いかけていないか、浄青も発足当時の精神を失っていないかを、反省しなくてはいけない時期に来ていると感じます。

京浜組の会長となり、自らに問いかけるいい機会を与えていただきました。これからも反省を忘れず努力してまいりたいと思います。

京浜組事業予定 平成 12 年 ・ 4 月 27 日 平成 12 年度総会 ・ 6 月 研修会  
 ・ 11 月 研修会  
 平成 13 年 ・ 2 月 研修会  
 忘年会



## 港北組

会長 大橋定敏

この度会員諸氏の推薦により、港北組第 11 代会長に就任致しました。港北組では、法式研修会を中心として、会員同士の研鑽や和合を計ってきました。またここ数年、会員の結婚が増えたので、本年度からは浄青会員ばかりの事業では無く、家族と共に参加出来る事業を企画し、親睦を深めて行きたいと思ひます。また神奈川浄青の事業にも積極的に参加し研鑽していきたいと思ひます。

平成 12 年度港北組事業計画

- ・ 法式研修会 (年 4 回)
- ・ 港北・港南家族親睦会
- ・ 港北浄青暑気払い
- ・ 港北浄青忘年会



## 港南組

会長 石川覚順

わが港南浄青は会員の半数が住職で自坊の外に法務を持たれていることから、現在研修会等の多数の同時参加は困難であります。自行・化他・和合の活動方針の下、青年僧であると同時に教師としての礎となるよう、地道な活動をして参ります。鎌倉浄青と合同の布教研修会では柴田哲彦先生に『選択集』をご指導頂いております。十二章段まで来ており、いよいよ佳境に入りました。一緒に学生に戻ってみませんか？。皆さんも是非お越し下さい。



## 三浦組

会長 慶野匡文

浄青三浦組は新会員も 3 名増えにぎやかとなりました。わが組会員一同、一丸となって(そういう体質?)浄青を盛り上げて参りたいと思ひます。さらに“責任ある”パワーアップをめざせたらと思ひます。今や 21 世紀へ向けて何かと先々の事に目を奪われますが、元祖様の言われるよう、“まず足元から”をベースに、難しい事ではなく、わが身を見つめる勉強を手掛けていきたいと思ひます。

どうぞ皆様よろしくお願ひします。

◎平成 12 年度事業内容

①勉強会としては、布教・法式両面を通じて、浄土宗青年僧侶の心構え的な切り口を掘り下げていき②自らの信心を深め③家族ぐるみの親睦をより深めていくという予定。

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| 5 月 布教研修 I ・ 布教アンケート | 6 月 法式研修 I          |
| 9 月 バーベキュー大会         | 10 月 引声勉強会 (以後集中的に) |
| 11 月 布教研修 II         | 12 月 たくはつ・忘年会       |
| 1 月 法式研修 II          | 3 月 布教研修 III        |



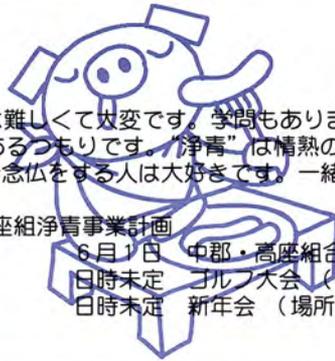
## 高座組

会長 齋藤良典

まとまりのある話は難しく大変です。学問もありません。勉強します。世間の難しいことも不得手で。でも情熱だけはあつもりです。「浄青」は情熱の集団だと思っています。おかしなことを言ったり、したりも致します。お念仏をする人は大好きです。一緒に頑張りましょう。

### 12年度高座組浄青事業計画

- |                    |                         |
|--------------------|-------------------------|
| 5月25日 研鑽会 (神奈川教務所) | 6月1日 中郡・高座組合同親睦会 (場所未定) |
| 日時未定 家族親睦会 (場所未定)  | 日時未定 ゴルフ大会 (場所未定)       |
| 12月 忘年会 (場所未定)     | 日時未定 新年会 (場所未定)         |
| 日時未定 礼拝会 (場所未定)    |                         |



## 中郡組

会長 宮澤正恭

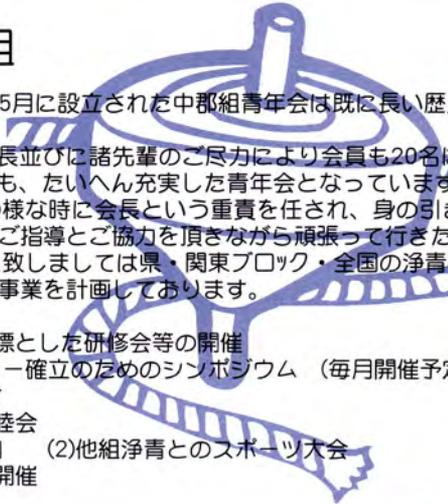
昭和50年5月に設立された中郡組青年会は既に長い歴史を持ち、本年四半世紀の節目の年を迎えます。

歴代の会長並びに諸先輩のご尽力により会員も20名に及び、豊かな人材に恵まれた上に、年齢構成上からも、たいへん充実した青年会となっています。また本年は西暦2000年という新たな時代の出発点でもあり、この様な時に会長という重責を任せられ、身の引き締まる思いであります。何分にも浅学非才の身であります皆様のご指導とご協力を頂きながら頑張っていきたいと存じます。

平成12年度の事業計画と致しましては県・関東ブロック・全国の浄青の事業等に積極的に参加させて頂くと共に、中郡組青年会では次の様な事業を計画しております。

1. 会員相互の資質向上を目標とした研修会等の開催
  - (1) 個々のアイデンティティー確立のためのシンポジウム (毎月開催予定)
  - (2) 活動報告の作成及び配付
2. 他組浄青との研修会・親睦会
  - (1) 他組浄青研修会への参加
  - (2) 他組浄青とのスポーツ大会
3. 会員並びに家族親睦会の開催

以上



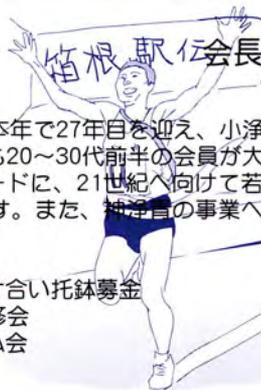
## 小田原組

都築顕道

昭和48年に設立以来、本年で27年目を迎え、小浄青も時代と共に変革して参りました。会員の年齢も20～30代前半の会員が大半を占める昨今、本年は、「次代づくり」をキーワードに、21世紀へ向けて若い世代へ引き継げるよう組織改革を行い、事業展開をしていきます。また、神浄青の事業へ積極的に参加し、多くの会員との交流を深めて参ります。

### 平成12年度事業計画

- |            |                |
|------------|----------------|
| 8月 家族親睦会   | 12月 歳末助け合い托鉢募金 |
| 9月 OB合同親睦会 | 2月 法式研修会       |
| 9月 法式研修会   | 4月～3月 別時念仏会    |
| 12月 忘年会    |                |



## 鎌倉組

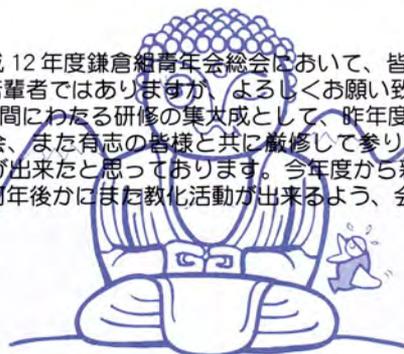
会長 成田善俊

今年4月、平成12年度鎌倉組青年会総会において、皆様の推薦を頂き会長に就任致しました。未熟、若輩者ではありますが、よろしくお願い致します。

当組では、8年間にわたる研修の集大成として、昨年度、浄土宗ハワイ別院にて引声法要を三浦組青年会、また有志の皆様と共に厳修して参りました。現地の皆様にも大変喜んでいただき、すばらしい法要が出来たと思っております。今年度から新たに「未来の教化へむかって」をテーマに自行に重点を置き、何年後かにまた教化活動が出来るよう、会員一同努力してまいります。

### 活動予定

- 経典講読研修会(8回)
- 引声研修会(2回)
- 法式研修会(2回)
- 別時會
- 六時法要 於青龍寺





# 平成11年度事業報告

## 沖縄

— 全浄青代表者研修会 —

平成12年1月25日、28日全国浄土宗青年会が主催する第25回代表者研修会テーマ「傳存創起・ボランティア」が、沖縄ハーバービューホテルを会場に開催され、全国から浄青会員が約130名、内神奈川県からは第12期神浄青会長・一真光会長を筆頭に9名が参加しました。研修内容は、沖縄国際大学学長・平敷令治先生による「沖縄の祖先祭祀」、久留米工業大学教授・喜舎場隆先生による「袋中上人とエイサー、じやんがら念仏の関係」の講義が行われました。



次に、視察研修では、ボランティア活動の一端として浄土宗が母体となって開設した社会福祉法人袋中園を視察。Tシャツ、バスタオルなどの寄贈が行われました。また、ひめゆりの塔、平和記念堂などで、平和記念法要も厳修しました。

この研修の最後の締めくくりとして、参加者全員でテーブルディスカッションを行い、これからの浄青の在り方について論議が交されました。



## 介護体験

平成12年2月24日、第12期神浄青最後の事業となる「高齢者介護体験事業」が藤沢市法円寺（川瀬和一住職）・社会福祉法人「共生会」において、23名の参加者を集め行われた。

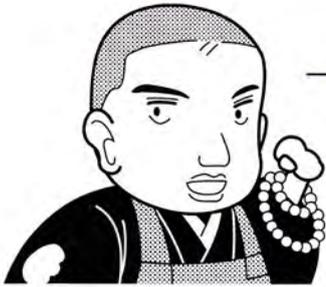
当日は、本堂での回顧の後、川瀬副施設長より共生会の成り立ちや現在置かれている状況など様々な説明を受けたのち、養護老人ホームと特別養護老人ホームの2つの施設を見学した。

このホーム内見学では、老人用車椅子や、椅子にすわったまま入浴ができる設備など、高齢者の介護にとって不可欠な器具を多数体験した。

そして後、入所者の方々の親睦の場を設け、最初は戸惑いを感じつつも楽しい時間を過ごした。また、場所をかえて行なわれた参加者の懇親では、会員1人1人から今回の感想が述べられた。

今回の体験で、私たち青年僧侶がこれからの高齢化社会でどのような役割をはたすべきかを考える貴重な時間を経験できた。





# 平成12年度事業計画

## 高座組ソフトボール おらがあく組を 正しい道に導こう

近年ソフトボールといえば「おらが組だ!」とか寝ボケたことを言っているチームがあるそうです。何やら相模川の近くにいるそうです。今年が開催組として、皆様に楽しんでいただきたたく試合をしてゆきたいと願っています。その為にも、あの「おらがあく組」の人々を正しい道に導いて下さるよう、皆様をお願い致します。



## リベンジ

昔から「色男、金と力は無かりけり」と言われるように色男ぞろいの港北組は、神淨青ソフトボール大会では、ここ数年低迷しています。しかし今年度は、体を鍛え、上位を目指しがんばりたいと思います。以上、開催組会長および前年度最下位組会長よりの一言でした。

## 平成12年度 総会報告

平成12年度の神淨青総会が4月21日、大本山光明寺を会場に行われ、出席者53名、委任状53名、合計106名をもって成立された。



開会、一會長の挨拶のあと議長に  
洪谷上人を選任して議

事に移り、平成11年度事業報告、収支決算及び新役員の承認がなされた。宮林新会長は一前会長の足跡を踏まえつつ、「邂逅創心」のテーマのもと邁進することを誓い、続いて平成12年度事業計画及び収支予算が承認された。最後に昨年度加行成満者に対して、新会長から記念品が贈呈され、盛大な拍手が送られた。

## 平成12年度 神淨青事業計画

- 4/10 第1回予定者理事会 光明寺
- 4/21 定期総会 光明寺
- 4/21 第1回理事会 光明寺
- 5/18 第2回理事会 光明寺
- 5/18 第12期・第13期新旧役員歓送迎会 鎌倉パークホテル
- 6/1 機関誌『浄青神奈川』第27号発行
- 6/22~23 第28回関プロ浄青総会並びに研修会 水上温泉 ホテル聚楽
- 7/4 開山忌前清掃奉仕 光明寺
- 7/4 第4回理事会 光明寺
- 7/28~30 第54回夏期僧堂 光明寺
- 8/29~30 第30回全浄青中央研修会 天童温泉 天童ホテル
- 9月中旬 第4回理事会 光明寺
- 10月3日 第18回神淨青ソフトボール大会 場所未定
- 10月上旬 十夜前清掃奉仕 光明寺
- 10月上旬 第5回理事会 光明寺
- 10/13 関プロ浄青三大本山別時念仏会 光明寺
- 10/14 十夜手伝い、十夜托鉢・伝道 光明寺
- 10/31 第18回関プロ浄青ソフトボール大会 栃木県塩原町
- 12月中旬 第6回理事会 場所未定
- 12月中旬 全体忘年会 場所未定
- 1/25 御忌別時念仏会 光明寺
- 1/25 第7回理事会 光明寺
- 2/20~21 全浄青代表者研修会 知恩院
- 3月上旬 帰敬会 光明寺
- 3月下旬 第8回理事会 光明寺

## 第12期・第13期 新旧役員歓送迎会報告

第12期・13期新旧役員歓送迎会が5月18日、鎌倉パークホテル海星の間を会場に、大本山光明寺御法主戸松啓真台下をはじめとする御来賓・歴代会長ご臨席のもと、46名の出席者を得て開催された。御法主の御入場により開会。御垂示を頂戴し、宮林新会長・一前会長の挨拶、御来賓・歴代会長の紹介の後、来賓を代表し大本山光明寺宮澤執事長の御祝辞、野呂第七代会長の御発声による乾杯が行われた。祝宴では、野中教区参事、里見・戸松両歴代会長からの御祝辞や、第12・第13期の役員の紹介がされ、



盛会のうちに閉会となった。

# 新入会員紹介



村山英淳  
三浦組円乗院



岳瀬弘昌  
鎌倉組大長寺



三浦康志  
高座組西光寺



香川隆真  
港南組中田寺



夏見成貴  
港北組宗忠寺



大熊隆史  
京浜組成仏寺



大場得法  
小田原組円宗寺



小俣慶樹  
小田原組西念寺



相馬良正  
中郡組知足寺



福田雅宏  
中郡組南蓮寺



三浦正順  
三浦組光照寺



松江弘信  
三浦組満宗寺

# 卒業会員紹介

お疲れ様でした



杉田俊一  
三浦組相福寺



山崎純一  
鎌倉組千手院



山澤敦浩  
港南組西立寺

今日まで、神浄青活動を通して、諸先輩の方や各組会員と交流を持つ事により、多くの方々と出会えた事を大変有難く思います。

また活動では、浄青会員の若い力を結集しいろいろなことを成し遂げてきました。しかし、若さにまかせてはめをはずしすぎる場合もあるので、浄青会員すべてが、僧侶という自覚を忘れずに、努力、精通していただければと願っています。(山澤)

# 編集後記

元 編集委員会に初めて入ったんで、結構忙しいですよ。相君は3期続けて編集委員会で、すけど去年まではどうでした？何か今期は異常に仕事が増えた気がするな。気のせいかも知れないけど……

菊 気のせいじゃないよ！オレなんか全然寝てないよー！オレもオレたち仕事もロクに出来なかつたよ！

相 ところで、大さん結婚したんですって？

大 ありがとうございます。おかげさまで幸せです！

小 そのなんだよ！宮、会長から直々に「ナイスガイ」って言われたんだぞ！

一 一 同 オレも言われてさよ！

三 三 同 そうだ！みんなで努力して会長に「ナイスガイ」って言われる編集委員会になろうぜ！



神浄青HPアドレス  
<http://www.jodo-kanagawa.com/josei>  
アクセスください。



神浄青対内誌  
「nice BOSE 通信」  
9月創刊  
乞うご期待！